

西光

第 3 号

百橋山 西 光 寺
高岡市京町一〇一二五
電話 二二二二九七一
平成元年九月二十八日

昔は秋の米の取り入れが、十月から十一月にかけて長い間にわたり、一家を挙げて稲を刈り、そして篠に掛け、乾燥や脱穀まで、年寄りも子供もみんなで農作業を手伝っていた。子供が下から稲の束を投げ上げれば、篠の上で父親がそれを掛け、また父親がリヤカーを引けば、母親が後から押すといった具合であった。家の庭中糶や藁くずで一杯であった。大変な肉体労働であったと思われる。しかしかつては田圃に残された糶柄を燃やす煙が秋の風物詩であった。山梨県立美術館にあるフランスの画家ミレーの描いた「晩鐘」の絵にあるような過酷な労働の中に、しかし信仰と家族と自然とが一体となった時代であった。しかし今ではコンバインや乾燥機などの農業機械の普及で日数もわずかで、また子供や年寄りの手を借らずに、あつという間に出来てしまうようになった。むしろ年寄りや子供はかえって邪魔とさえ言われる。まして米価問題や農産物の自由化などと呼ばれる今日では、家族共同体的な作業では間尺に合わないであろう。またかつては取入れの真つ最中の農家の友達の家に行くと、おやつにじゃがいものふかしたものをよく頂いたものだ。また歳暮れ近くなり、畑の大根を抜くのを手伝うと、取れたばかりの大根をその場で輪切りにして食べさせてもらったが、実に甘くておいしいものだった。その昔比叡山で修行中の親鸞聖人が、冬の寒い頃吉水の法然上人の元へ通うとき、その冷えたからだを暖めるのに、大根を炊いて出して差し上げたと言う話が伝わっている。今でも京都の嵯峨野に近い鳴滝の真宗大谷派の了徳寺では十二月九・十日に「大根焚き」として、輪切りの大きな大根を油上げと一緒に大きな鉄釜で煮て食べ、親鸞聖人の威徳を讃える法要が営まれる。多くの善男善女がごった返す狭い庭で底冷えのする風に吹かれながら、熱い大根をふうふう云いながら頂くのである。またこの時期に焚いた大根を食べると中風にならないとも言われている。西光寺でも十一月二十七日の御正忌にはこの故事にちなんで大根を焚いて頂くことにしている。報恩講や御正忌の季節ならではの、身の引き締まりつつ、心温まる風物詩である。このように親鸞聖人にも長閑な信仰の時間が流れていた。

ところがその後、鎌倉時代の中頃、承元元年（一二〇七）専修念仏の禁止令を受けて、その師法然とともに流罪に処せられ、越後に流された。「僧綽空」の名を剥奪されて、藤井善信と俗名を与えられ、以後聖人は自らを「愚禿釋親鸞」と名乗ることになった。すなわち家出して僧であったものが、自ら欲せずして俗人にさせられ、さらに越後に流罪となったのである。ここに僧にあらず俗にあらず「非僧非俗」の親鸞が生まれた。時に聖人三十五歳であった。これを「承元の法難」という。いかに下級とはいえ京都の公家に生まれ、比叡山で俗界を離れた生活をしていた親鸞にとっては、身分を剥奪され、流罪と言う汚名を負わされ、さらには越後での厳しい自然や慣れない農作業や流人の生活は、人生観を一

変せたとされている。ここに僧俗の区別なく、信を同じくし念仏する人はすべて「御同朋御同行」として、共に念仏の行者として歩むことになったのである。そしてまた自ら信じた念仏の教えを、人にも説いて聞かせ、信じるに至らせる「自信教人信」と言う真宗の念仏者の態度が確立したのである。

《標語》

弥陀の誓願不思議にたすけられまいらせて、
往生をばとくぐるなりと信じて念仏もうさんとおもいたつころのおこるとき、
すなわち撰取不捨の利益にあずけしめたまうなり。
弥陀の本願には老少善惡のひとをえらばれず、
ただ信心を要とすとしるべし。（歎異抄）

《御正忌の大蠟燭》

毎年十一月二十七日の御正忌には大きな蠟燭が灯される。御正忌は云うまでもなく、親鸞聖人の祥月命日にあたる十一月二十八日の前の晩、すなわちお逮夜の法要である。本山ではこの時「御正忌報恩講」が営まれる。伏木の勝興寺では御正忌に大蠟燭を灯して、一晚中御示談を交わすそうである。
親鸞聖人の教えの真髓に迫るべく、各地から集まった善男善女が思い思いに意見を披歴する。その激しい議論は朝まで夜を徹して行われと言ふ。西光寺では徹夜はしないうが、精神だけは意気高く、大きな蠟燭にその気持ちを託して御正忌を勤めます。なお報恩講の夜のお初夜の時にも、この大蠟燭を点火して闇夜の光明を表しています。



《真宗ひとこと知識》

「自信教人信」 善導の『往生礼賛』による。自ら信じ、人にも教えて信じさせることとて、真宗の伝道・教化の理念とする。自信と教人信は、自利と利他に相当する。

（「真宗小事典」法蔵館より）

《行事予定》

十月八日	報恩講（講師 教願寺 釜田恒明師）
九日	（講師 願浄寺 嶋 秀誠師）
十一月八日（終お講）	法話会（講師 光専寺 葉室文昭師）
十一月二十七日	御正忌（講師 願浄寺 嶋 秀誠師）
一月一日・二日・三日修正会・金剛参り	
一月八日（初お講）	法話会（講師 教願寺 釜田恒明師）
三月八日	法話会（講師 教願寺 釜田恒明師）
毎月八日	法話会（講師 教願寺 釜田恒明師）
八月七日・八日	永代祠堂経会（講師 光専寺 葉室文昭師）